

発行人 / 学園町自治会会長・萩野晶子  
企画編集 / 学園町自治会広報委員会  
編集長 / 浜名 純  
投稿・連絡先 / 学園町1丁目14番地31号  
電話 / 090-6005-7887

# 学園町 かわら版

114号



学園町HPは  
こちらのQR  
コードから

購読無料・各戸配布 / 隔月刊行



## 自治会「まちづくりワークショップ」

### 地区計画の検討スタート

最近、学園町の風景が急速に変わっていくと感じませんか。緑豊かな大きな住宅が取り壊されたと思うと、すぐに何軒かの住宅が新築されます。そして、あつという間に木々の緑がなくなっていくます。

学園町自治会では、2008年に「学園町憲章」を制定しました。法律的な効力はありませんが、住民みんなの力で大きな木を残し、生垣等で緑化に努め、この町の豊かな緑を残していこうとがんばってきました。新しい家が建ちそうな時は、自治会の役員が不動産会社や新しい建主さんに学園町憲章の主旨をねばり強く説明し、協力を求めました。しかし、開発のスピードは速まるばかり。「法的拘束力はなくと

も、住民の意思で緑の環境を育む」という思いだけでは、通用しないという現実が直面しています。

2023年に実施したアンケートでも、有効回答者数430のうち68%の人が「何らかの法的なルールが必要」と回答していました。これを受けて学園町自治会では、昨年の総会で地区計画・緑地協定などによるルール化の検討を決議。さらに今年5月の総会では、まず地区計画の策定に向けて検討を急ぐ方針を決めました。

「まちづくりワークショップ」は、そのための組織です。地区計画は都市計画法に基づき地方自治体が規定するものですから、その検討に当たっては専門的な知識がいります。また行政と連携し働きかけていくにしても、ほかの地区計画の事例などを知っておく必要があります。そこで、こうしたことに経験や知識が深い有識者と、自治会長ほか運営委員会のメンバーとが、ひざ詰めで集中的な議論を進めていく場を設けることにしました。

ワークショップには、鎌倉市や国分寺市の公務員として地区計画の実現にも当たってこられた松本昭さん、自由学園の職員として建物保全等も担当されていた宮井昭隆さん、そのほか都市計画や建築デザインの専門家が数名参加してくれました。ほとんど手弁当で学園町をぐるっと見てもらうと、「この環境は後世に残さなければならぬ」と

とあって、手伝ってくださる方が多いのです。

すでに6月1日と7月5日の二回、ワークショップを開催しました。学園町憲章があるので、私たちが求める学園町の姿は既にかなり明らかになっているのですが、地区計画に落とし込むには、より具体的に基準を数値化していくことが必要になります。緑化率、垣根と塀・壁面の配分、敷地面積とのバランスなど、さまざまなことを検討しなければなりません。

地区計画の規定が行政面で適用されるのは、新しく家を建てるために建築許可を申請する時なので、現状のまま住み続けていくことには影響がありませんが、いつかは売却したり建て替えたりされます。そこは長い目で幅広く考えていく必要があります。この学園町の緑を末永く守りたいと

#### 参加受付中です

#### 学園町誕生100周年記念イベント 「夏休み子ども教室」種子(たね)の世界を旅してみよう

移動できない植物はどのようにに生活場所を広げ、子孫を増やしていくのでしょうか？

自然界の疑問を自由学園の山縣先生が実験を通して、子供たちと解き明かしながら、不思議な世界を旅します。

日時：8月23日(土) 10時～12時  
場所：自由学園 ラーニングコモンズ(旧男子部体操館)

講師：山縣 基(やまがた もとい) 先生(自由学園中等部部長 理科教諭)  
対象：小学3年生以上(一年生から可)

いう住民の思いは共通でしょうが、実際の敷地・建築面積はさまざま。世代によって考えかたの違いもあるでしょう。自治会ですから、近隣住民の親睦や防災対策は重要な使命です。何より住民のコンセンサスを大切にしなければなりません。学園町の緑の環境は、現在の土地価格にもプレミアムとして上乗せされているので、そうした好循環を守るには住民共通の利益のほず。そうした経済的な側面も考える必要があります。

こうしている間にも、学園町の町並みは大きく変わっていきます。地区計画の素案を一日でも早く自治会員の皆さんに示して、組長会や説明会で広くご意見をいただき、総会の場で集約していかなければなりません。そうした気持ちで、「まちづくりワークショップ」は、検討作業を進めています。

※保護者も参観可能

定員：40名  
参加費：無料

持ち物：筆記用具、はさみ、水筒(飲み物持参)、上履き  
申込み：QRコード、または左記よりご入力ください。

https://forms.gle/pUs4bHTXmgandKp6

主催：学園町自治会  
協力：自由学園 協賛：全国友の会 東京第一友の会 南沢方面



# 「まちのよさをどう伝えるか、苦労しました」 学園町HPの制作者 佐々木哲平氏に聞きました

皆さま。「学園町公式ホームページ」<https://gakuenchoji.jp/>をご覧になりましたか。「学園町かわら版」の前号(6月号)で紹介したように、自治会では、「学園町公式ホームページ」を開設しました。このホームページを製作したのが、島根県松江市でウェブサイトの制作を手がける「(株)noto(ノト)」の佐々木哲平社長です。佐々木社長にインタビューしました。



——ウェブ制作を手掛けるようになった経緯をお教えてください。  
**佐々木** 1980年、長崎大学を卒業後、事務機の営業をしている会社に2年くらい勤務していましたが、その後、父親が経営するデザインオフィスに入ったのがきっかけです。やがてフリーランスとして独立し、今の会社を立ち上げ

ました。  
——写真家としても活動しているのですか？  
**佐々木** ウェブサイトを作るには写真も必要ですよ。外注に頼ると管理が難しかったりタイミングがずれたりします。もともと写真は趣味で撮っていたので、この際自分で撮ってみようと勉強しました。

——現在の仕事内容を教えてください。  
**佐々木** ウェブサイトの制作からデザイン、最終段階まですべてを一貫してやっています。プランニングする

——現在の仕事内容を教えてください。  
**佐々木** ウェブサイトの制作からデザイン、最終段階まですべてを一貫してやっています。プランニングする

時点で物語づくりというか、ストーリーの構成もし、原稿も全部作ります。もちろん写真も撮影するので、ウェブサイトを作るのに必要な素材は全部自社できると自負しています。クライアントも島根県内だけではなく、宮崎、愛知、静岡、東京など全国に及んでいます。職種も農業から医療・福祉、製造業など多岐にわたっており、民間だけでなく、島根県の広報課をはじめ行政の仕事も手がけています。

——仕事に対する姿勢やこだわりについてお聞かせください。  
**佐々木** 今、大切なのは対話をするということではないでしょうか。AIが発達し、写真や映像にしてもカメラの進歩がすごいので、それなりの画面ができてしまう。極端に言うと、クライアントとコミュニケーションを取らずに仕事ができしてしまう。実はそれではいけないと思っています。

依頼者の困りごととは何か、課題は何かをしつかりと引き出した上で、モノづくりに関わるのです。その次にその課題や困りごとをウェブを見る人にどう分からせていくか。つまり、依頼者の思いを言語やビジュアルでどう伝えていくか、それを意識しています。そのためにはクライアントとのコミュニケーションが大切になってくるというわけです。それをやらないのであれば、別の人でもいいや、ということになるのです。

——学園町ホームページで苦労したのはどんな点でしょうか？  
**佐々木** 最初は、「将来、町として残っていくために必要なものが備わっている町ですよ」という言い方で進めていこうとしていたのです。しかし、引越して来られる方がホームページを見て、そのような言い方で町のこと分かるだろうかという疑問が出てきました。その時、自治会の荻野会長から「屋根より高い木がある町」と言われました。なるほど、と思いました。これなら、ぱつと聞いて、ああこういう町だね、と理解ができる。この言葉を核にして、内容が煮詰まってきました。

住む町を選ぶ場合、利便性を重視して選ぶ人もたくさんいると思います。例えば職場まで電車一本で行けるとか。交通の便という利便性だけで選ぶ人もいるわけです。つまり、「ソフトを含めたコミュニティを守る」と思わなくていい人たちが来るのですね。その土地で何があるかを気にしないし、コミュニティに参加する意識も低くなる。しかし、住宅を見て「これが遠藤建築だ」と分かって、自由学園との共通部分も多く、町としての統一感があることに気づくと面白くなる。そして、町に愛着がわくと思えました。学園町ホームページがそのためのツールとなればうれしいですね。

——最後に学園町へのエールをお聞かせください。  
——最後に学園町へのエールをお聞かせください。

**佐々木** 建物も老朽化し、住む人の年齢構成や人数も変わって来ます。どこかの段階で変わらなければいけないのであれば、どう変わっていくかが理想なのか。どう変わっていったらワクワクするのか。そのためには変化の過程について住民の方が共通した認識をもてればいいのではないのでしょうか。そして、ゆるやかに変化をしながら町が続いていくようになればいいかなと思います。

——変わるものと変わらないものが世の中にはありますね。  
**佐々木** 変わらないことも安心感があるから大事で、変わらないうところには価値観を置かれる方もいます。今がベストだと思っていない。あるいは、これ以上悪くならないようにということが変わってほしくないという人もいます。一方、変えなければいけない、変えたほうがよくなるということもあるわけです。そういういろいろなことを多面的に見ることができるとこの町にたくさんいるといいのだらうなと思います。自治会をはじめ皆さんに期待しています。会社の組織も一緒ですよ。先々こうでありたいというビジョンを示している所が強いし、それが従業員の中に浸透している所はとて強い。そういう意味では、住民の方が共通で大切にしていることが、もっと言語として認識されるようになってくると、面白いと思います。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪  
**ピアノトリオ「 Trio 向日葵」**  
**結成10周年記念コンサート**  
**10月26日、自由学園記念講堂で**  
 ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

「 Trio 向日葵」(トリオひまわり)は、ピアノの根岸幸代さん、ヴァイオリンの奥村みりさん、チェロの菅原然子さんの3人で構成しています。根岸さんは東京音楽大学ピアノ科を卒業後、2002年に渡英し英国王立ウエルズ音楽大学大学院、ディプロマ卒業。卒業時にジュリアンジェイコブ賞を受賞、2008年には高円宮妃殿下が列席した東京ウイメンズクラブ100周年記念式典で演奏しました。奥村さんは、6歳からヴァイオリンを始め、武



蔵大学人文学部を卒業後、新交響楽団・練馬交響楽団など多数のアマチュア団体に演奏。同人音楽・商用BGMなどでの演奏も手がけています。菅原さんは、12歳からチェロを始め、15歳から約10年間、ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラに所属し、故山本直純氏をはじめ、多くの指揮者から音楽的指導を受けました。東京学芸大学大学院教育学研究科を修了しています。

発足のきっかけは、2015年、学園町に引っ越してきた根岸さんが、お子さんを連れて学園町1丁目の育児サークル「わはは」に顔を出したところ、同じく子供を連れてきていた菅原さんとおぼつたり会ったこと。お互いに楽器を演奏することを知って意気投合しました。さらにその後、菅原さんが子供の幼稚園で、昔、室内楽のレッスンを一緒に受けたことがあった奥村さんに、これまた偶然に再会したので。こうしてピアノ、ヴァイオリン、チェロが揃い、根岸さんの家に3人が集まりました。「3人で練

習するだけでなく、コンサートを開きましょう」と衆議一決、トリオが誕生しました。

3人とも子育て真っ最中。「同じようなお母さんたちに元気を与える存在になりたい。太陽に向かう向日葵のように明るく音楽をお届けしたい」と「 Trio 向日葵」(トリオひまわり)と命名しました。

第一回目のコンサートは、2015年12月6日(日)、自由学園しのめ茶寮のカフェで開催しました。はじめのうちは、しのめ茶寮を中心に演奏活動をしていましたが、口コミなどで評判が広まり、いろいろな所から依頼の声がかかるようになりました。西

東京市のこもれびホールや各公民館、中原小学校、東久留米市の第二小学校、老人ホーム、教会などです。2019年のこもれびホールでは、ベビーコンサートと銘打ち、0歳から3歳までのお子さんと保護者を対象に演奏したことも。曲目もクラシックからポピュラーまで多彩で、聴く人の年齢に合わせて演奏しています。子育てや仕事に忙しい合間を縫ってほぼ季節ごとに開催し、現在までに40回近いコンサートを実施しています。

「クラシックからPopまで」と題し、10月26日(日)、自由学園記念講堂で1時から開催(開場13時30分)。第一回目に演奏した「ピアノ三重奏曲第一番二短調作品49(メンデルスゾーン)」をはじめ、

トップ・オブ・ザ・ワールド(カールペンター)など多くのプログラムを用意しています。チケット代は1000円(高校生以下は無料)。予約は文末のQRコードから(予約が席数に満たない場合は当日券あり)。

問い合わせは、 Trio 向日葵HP  
<https://norikosugaga88.wixsite.com/triohimawari>  
 または奥村さん  
 (080-3021-8052)

「 Trio 向日葵」の活動を通して親子が触れ合い、楽しい時間を過ごそうというリトリミックコンサート「OTOTO」(おとと)が、6月30日(月)に、自由学園みらい館で開かれました。自由学園生活幼稚園コックルームが主催したもので、講師は

Boo音楽教室を主宰する小松萌さん、学園町写真室の千葉愛子さんが写真撮影を担当しました。

リトリミックとは、音楽に合わせて体を動かすことで、子どもの表現力やリズム感を育てる教育法で、スイスの音楽家エミール・ジャック・クールドルーフが創案したものの。

当日は、0〜3歳児までのお子さんや保護者13組が参加、育休中のパパや、兄弟と一緒に参加した人もおり、なごやかで賑やかなイベントとなりました。萌さんの素敵な歌声に合わせ、お母さんもお子さんも楽しく体を動かしました。コックルームで「みんなのお母さん」をしてきている幼方菊子さん(きっこさん)もサポートに駆けつけてくれました。

コンサート後には、お母さんたちとお話をする時間も設け、育児のこと、仕事と子育ての両立などをみんなで話しあいました。参加した皆さんからは「なかなか子どもと一緒に写真に写る機会がないので、いい記念になりました」「音楽の世界に引き込まれている子どもの表情が瑞々しくてうれしかったです」「普段体験できないリトリミックに参加できて、親子共々とても良い機会になりました」といった感想が寄せられました。次回は12月頃に開催を予定しています。お母さんもお子さんも心地よい場を作っていきたいということです。

**リトリミックコンサート「OTOTO」開催**



音楽を通して親子が触れ合い、楽しい時間を過ごそうというリトリミックコンサート「OTOTO」(おとと)が、6月30日(月)に、自由学園みらい館で開かれました。自由学園生活幼稚園コックルームが主催したもので、講師は

# ハマナホームで夏の風物詩 流しソウメン かき氷、スイカ割り 講演会、科学マジック ホームコンサートも開催

最高気温が35度を超え猛暑日となった7月27日(日)、学園町1丁目のハマナホームで、「流しソウメンの会」が開かれました。

近隣に住む子どもたちやお母さん、お父さんらが三々五々訪れ、長い竹を縦に二つに割った「水路」の両側に陣取って、流れてくるソウメンや具のミカン、オクラ、チーズなどを救い上げて口に運んでいました。

流しソウメンの後は、アイスメイクトという手軽な電動氷かき機で作ったサクサクかき氷を食べ、さらに子供たちがスイカ割りに挑戦しました。猛暑の中で、ちよっぴり「涼」を感じながら、夏の風物詩を楽しんだ一日でした。

ちなみに、4月にオープンしたハマナホームでは、「旅に出ようよ」と題して近藤正文さん(1丁目在住)が講演。近藤さんは、半世紀にわたって全国各地の町や村を巡り、その風景を写真とエッセイで綴った『日本の原風景99』(発行・いりす 発売・同時代社)を出版しており、旅の楽しさや意



義について語ってくれました。

6月29日には「ホームコンサート」を開催しました。5歳から70代までの15人が集まり、ピアノ、フルート、ヴァイオリン、サクソ、ソプラノ、独唱と楽しいコンサートになりました。その後のおやつタイムのおしゃべりも大いに盛り上がりました。

さらに7月5日(土)には「ぬいもの会」。7月29日(火)には「科学マジック」が開かれました。なお、8月は夏休みでイベントはありません。

## 故・津山みどりさんの「遠い旅」展

昨年5月に逝去された津山みどりさんの日本画作品展が、7月15日(火)から20日(日)まで、自宅アトリエと自由学園しのめ茶寮2階の2か所で開催されました。

津山さんは、自由学園女子部を卒業後、母校の自由学園で生徒たちに美術を教えるかたわら、日本の作品を描き続けてきました。

没後1年を記念したこの作品展のタイトルは「津山みどり 遠い旅」。津山さんは、作品の題に継続して「遠い旅」とつけてきたとのこと、最初の作品「遠い旅1」は1978年に描かれたものです。

企画したお嬢さんの津山ゆりさんは、『絵を描くために生まれてきた』んじゃなくて『生きていくから絵を描く』の、という生前の母の言葉から、描くことが暮らしとともにそつと『ある』ように願っていたことが伺えます。こうして並んだ作品たちは、母が生きた時間であり、みていた世界であり、まさに母の生き様のようなです。」とコメントしています。

学園町の住民や、かつての自由学園の同級生らが訪れ、作品を鑑賞しながら、生前の津山さんを偲んでいました。



## おしらせ

### 《南部地域センター》

※各イベント問い合わせは南部地域センター(指定管理者(株)セイウン) ☎042-451-2021 Mail [highigshikurume\\_nanbu@s-seiun.jp](mailto:highigshikurume_nanbu@s-seiun.jp)

★「介護予防・きくちゃんの脳トレ体操」  
高齢者の皆様が健康で日常生活を前向きに過ごしていただけるように言葉を使っての脳トレや体操で認知症、フレイルを予防しよう！  
・8月17日(日)・9月7日(日)  
9月21日(日)・10月5日(日)  
10:00～12:00  
・会場：地区センター集會室  
・定員：20名・参加費：300円  
・持ち物：タオル・筆記用具  
・講師：レクリエーション介護士 齋藤亜紀

★「夏休み 音の秘密探検隊」  
ヴァイオリンやチェロの体験と演奏会。4歳から大人まで楽しめる音楽イベントです。  
・8月20日(水)  
1部：13:15 開場(13:30～15:00)  
2部：15:15 開場(15:30～17:00)  
・会場：2階講習室  
・料金：大人1,000円 中学生以下500円(体験会のため子ども4歳以上)

・申込：南部地域センター窓口にてチケット販売  
・協力：NPO法人音めぐり  
★「シニアヨーガ」  
ヨーガを始めるのに年齢や性別は関係なし。今の自分を受け入れ、自分のヨーガをみつめましょう。  
・8月22日(金)・9月12日(金)  
・9月26日(金)・10月10日(金)  
1部 10:00～11:00  
2部 11:30～12:30  
・参加費：700円(当日払い)  
・対象：65歳以上。男性も大歓迎！  
・持ち物：ヨガマット・水分補給 動きやすい服装・厚手のバスタオル、汗拭きタオル  
・講師：ヨガインストラクター AZUSA  
★お宝いっぱい！「まあぶるミニバザー」  
地域の皆様よりご提供いただいた洋服・食器類・雑貨・書籍等をお手頃価格で販売します。掘り出し物がきっとみつかるよ！  
バザーの収益は、全額障がい者施設利用者の工賃として活用させていただきます。  
・8月26日(火)・9月23日(火)  
13:30～15:00  
・会場：ピロティ  
・問合せ：(社福) すぎのこまあぶる 042-473-5896  
★「バクさんとうたおう！」  
・8月31日(日)  
開場：13:15 開演 13:30～

・会場：2階講習室・定員60名  
・参加費500円  
★「なんぶおしゃべりサロン」  
・日ごろ気になっていること  
・最近身の回りに起きたこと  
・貴重な体験をしたこと等々なんでも自由に話し合い、そして他人の話をお聞きしましょう！  
ざっざっばらんなおしゃべりで心のコリをほぐしましょう！  
・9月7日(日)・10月5日(日)  
13:30～15:30  
・会場：地下1階音楽室  
・参加費100円・定員10名  
★「なんぶ朝市」開店  
・10月5日(日)9:30～11:30(売り切れ次第、閉店。)  
・会場：ピロティ  
・パン・おにぎり・お団子・地場産野菜等  
・協力：なんぶ朝市事務局

### 《自由学園》

■U12 こども広場  
開催日：8月30日(土)  
時間：10:00～13:00  
自由学園のキャンパスで、ご家族でのんびりお過ごしください。昔遊びやパン販売などを企画しています。詳細やお申込みはこちら <https://peatix.com/event/4501646>  
■自由学園幼児生活団幼稚園  
●夏まつり

開催日：8月30日(土)  
時間：10:00～12:30  
対象：0.1.2才、幼稚園の入園をお考えのご家庭  
夏の終わりは、ようちえんでたっぷりあそぼう！ワークショップに、えんにち、遊びのコーナー…暑い夏にピッタリ、自由学園の自家製シロップをかけて食べるかき氷も販売予定です！  
お申込みはこちら <https://forms.gle/HsRqd7onc9K6HMvNA>

●園庭開放  
開催日：9月8日(月)、9月26日(金) 食事つき、10月2日(木)  
時間：10:00～11:00 ※食事つきの場合は12:00頃終了  
詳細決まり次第、HPでお申込みを受け付けます。  
■自由学園最高学部  
第8回リベラルアーツ学会  
日時：9月6日(土)14:00～16:20  
会場：最高学部棟3階中教室  
お申し込み、詳細は学園HPからお願ひ致します。

※お問合せ先：自由学園学園長室  
TEL：042-428-4232  
e-mail：[headoffice-info@jiyu.ac.jp](mailto:headoffice-info@jiyu.ac.jp)  
URL：<https://www.jiyu.ac.jp>